

◎御講演 「日本の国連加盟 60 周年を迎えて考える」

前国際連合日本政府常駐代表 特命全権大使 吉川 元偉 氏

【大使の手紙】十四年ぶりのフランス勤務 在フランス日本大使 木寺昌人氏

【オピニオン】ルールを作るとのこと 石川 薫氏 (日本外交協会顧問・理事)

【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



「日本の国連加盟 60 周年を 迎えて考える」

前国際連合日本政府常駐代表

特命全権大使 吉川 元偉 氏

(平成 28 年11月16日 於日本記者クラブ)



日本が国連に加盟して今年で 60 年になります。60 年の意義を考え、日本や国連が直面している問題点・課題についてお話をしたいと思います。

私はこの夏に 42 年 3 カ月勤続した外務省を退官しました。最後のポストとしては国連常駐代表である国連大使を 3 年務めました。国際連合、英語では United Nations と言いますが、国連が世界史の中でどういう位置づけなのか、日本の国連加盟が日本の現代史の中でどういう位置づけにあるのかをまずお話し、その後、国連における日本の課題について述べたいです。

日本の「キラ星」が集結したヴェルサイユ講和会議

国際連合の前身はジュネーブに本部があり英語で League of Nations と呼ばれた国際連盟です。1914 年から戦われた第一次世界大戦は毒ガスが使われ、双方が塹壕の中で殺し合う大変悲惨な戦争でした。日本は山東半島と南洋諸島でドイツ軍と戦い、戦勝国として 1919 年のヴェルサイユ講和会議に出ました。西園寺公望と牧野伸顕の 2 人が全権でした。その後の日本史に名を残す人たちが講和会議のメンバーに入っています。吉田茂、近衛文麿、芦田均、有田八郎、松岡洋右、重光葵などです。

国際連盟の特徴の一つは、連盟がヴェルサイユ講和条約の一部を成していたことです。戦後、戦争に勝ったアメリカ、イギリス、フランス、イタリアと日本の 5 大国が中心となって国際秩序を管理し、2

イデアでした。理想主義的な考え方で、戦争は犯罪だ、条約で戦争を禁止しよう、これを戦勝 5 カ国が牛耳る体制でやろうと考え、国際連盟が発足しますが、アメリカは「ヨーロッパの戦争に関わるのは嫌だ」として国際連盟には入らないこととなりました。これはトランプ次期大統領の選挙中の言動に近い。「アメリカは自分たちの平和を守っていればいい、ヨーロッパまで行ってアメリカの若者が死ぬ必要はない」ということで、条約締結権を持っている上院が国際連盟加入を否決。アメリカの不参加で、国際連盟は英仏伊日 4 カ国が常任理事国となりました。

ロシアはソ連に代わっていました。ソ連を国際連盟に入れることには戦勝国が反対したため、ソ連は最初メンバーに入っていません。その後入りましたが、除名されました。日本は満州事変をめぐるリットン調査団の報告を不服として当時の松岡洋右外相、ヴェルサイユ会議に出た人ですが、松岡大臣が 1933 年に国際連盟総会から退席し、日本は国際連盟を脱退します。イタリアもその前後に脱退します。国際連盟はアメリカがないという非常に大きな致命的欠陥を持った組織で、第二次大戦を防げませんでした。

大西洋憲章→テヘラン会議→ヤルタ会議→国際連合

第二次大戦の最中の 1941 年 8 月、日本が真珠湾攻撃をする 12 月より前のことですが、ルーズベルトとチャーチルが集まり、戦争に勝つことを前提に「戦

※ご注意: 会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、当協会にご入会くださいますようお願い致します。

ご入会は「入会のご案内」よりお問合せください。